

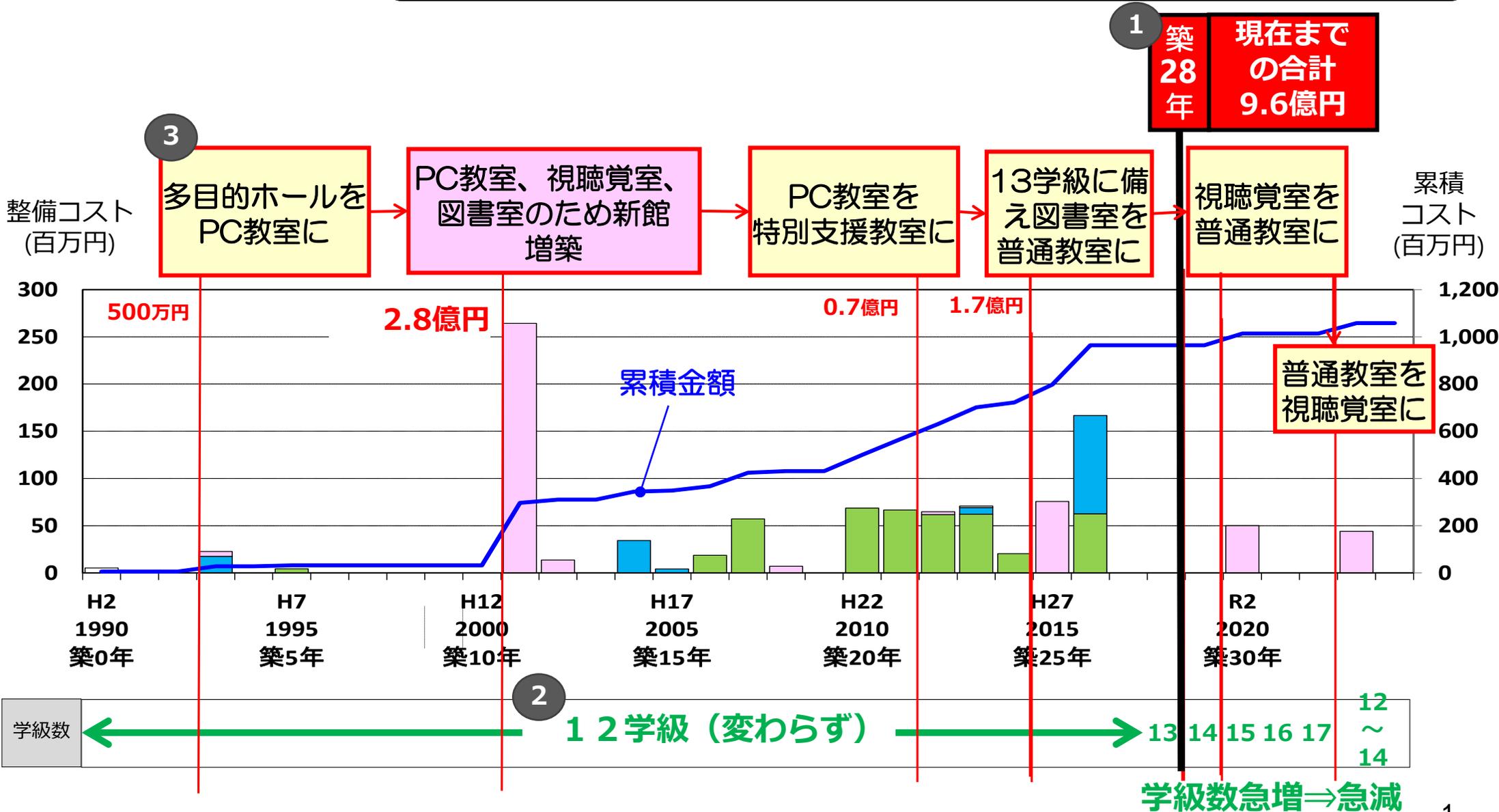
**人口動態等を踏まえた
学校運営や学校施設等の在り方**

**(株)ファインコラボレート研究所
望月 伸一**

1. フレキシブルな学校プランの必要性

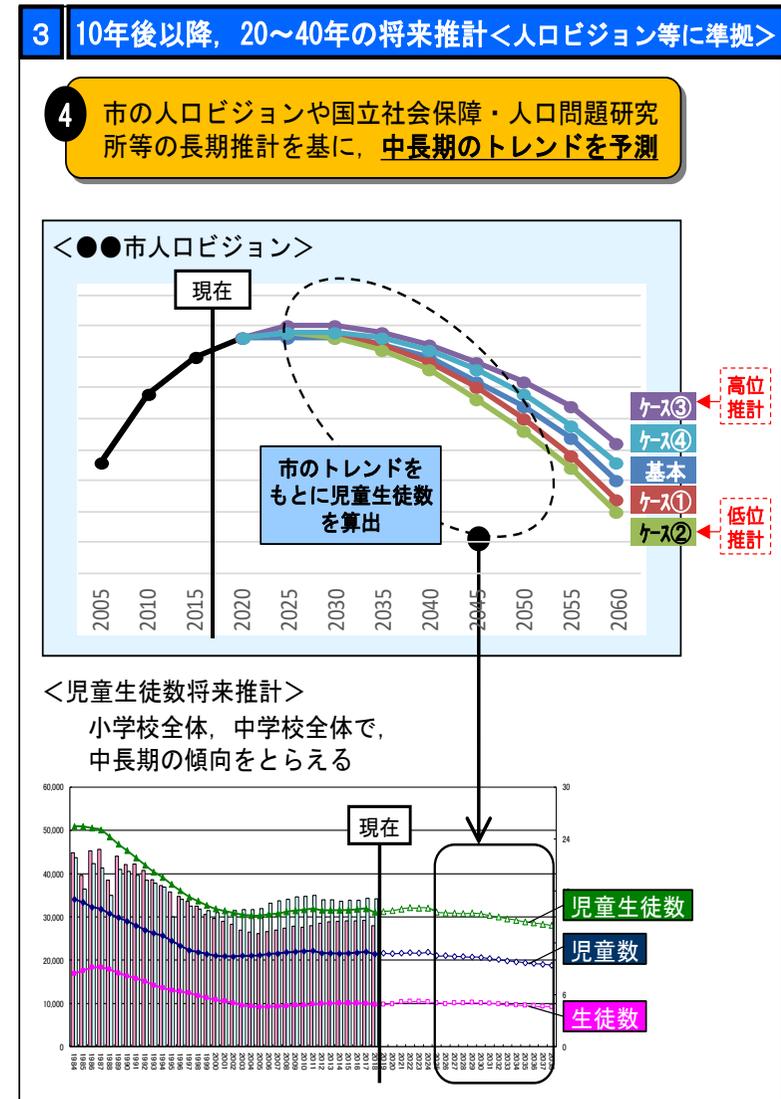
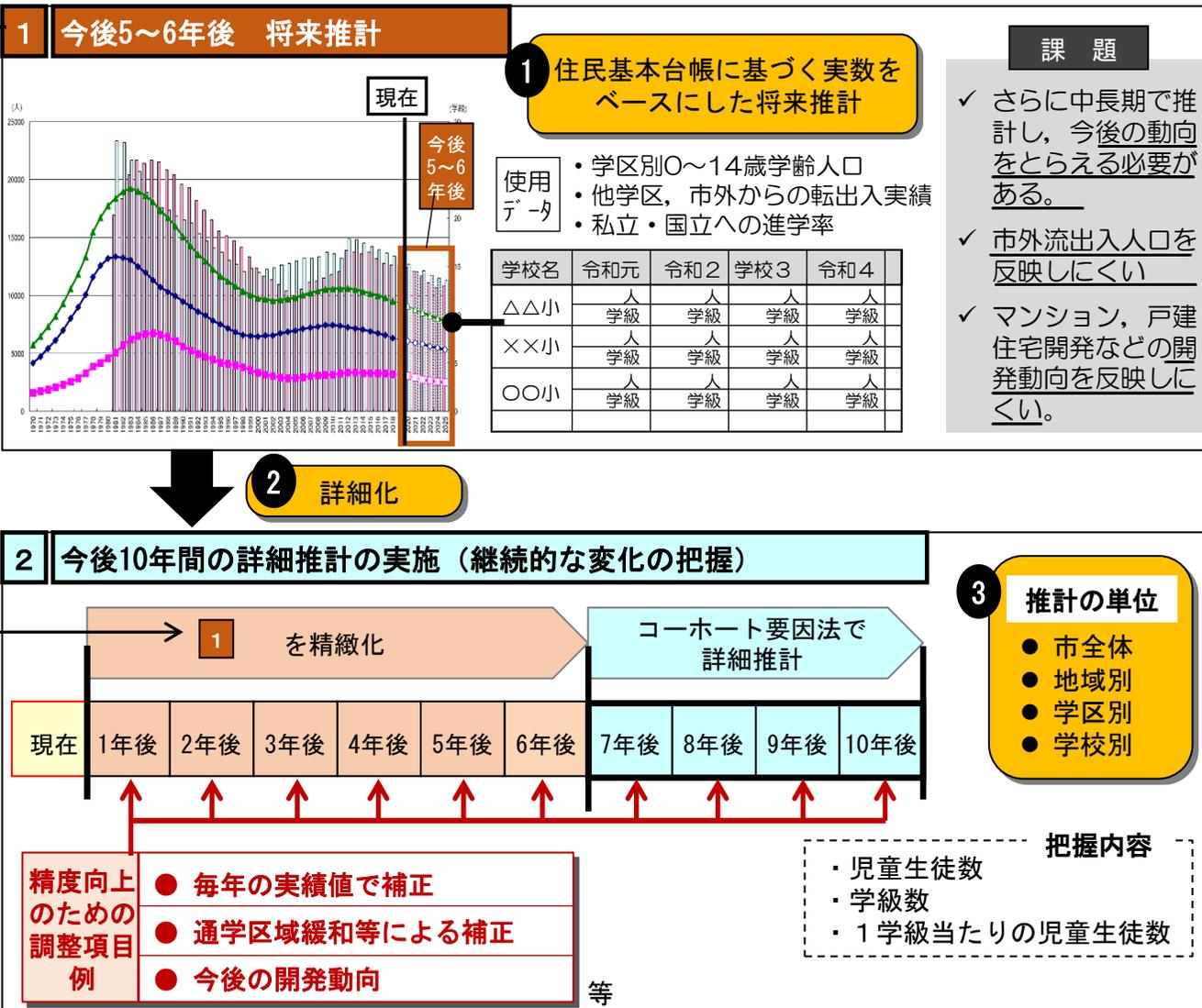
港区立A小学校の例

- ・ 築28年で建物の劣化・老朽化対策以外に約10億円のコストがかかっている。
- ・ 児童生徒数が変わった訳ではないのに、教室の用途替えや新館の増築をしている。



2. 詳細な将来推計の必要性

- これまでは、住民基本台帳に基づく、5・6年後までの推計
- 今後は『今後10年程度』の詳細な将来推計を行い、変化に対応できる施設にしていく必要がある。



2. 詳細な将来推計の必要性

将来推計の継続的な把握例

小諸市芦原中学校区の例

- 変化に応じてフレキシブルに対応するためには、継続的な将来変化の把握が重要
- 課題となる学校を事前にとらえ、個別の改善検討へつなげる

すでに千曲小で小規模校
2021年から坂の上小、
2022年から水明小で小規模校となる

過去から現在進行形で小規模校化

		過去				現在								5年後				10年後									
年度(西暦)		2018		2019		2020		2021		2022		2023		2024		2025		2026		2027		2028		2029		2030	
年度(和暦)		H30		R1		R2		R3		R4		R5		R6		R7		R8		R9		R10		R11		R12	
学級		普通	特支																								
坂の上小	児童数	331	7	313	7	307	8	281	8	276	8	270	8	251	8	232	8	218	8	219	8	206	8	198	8	193	8
	クラス数	12	2	12	1	12	1	11	1	11	1	11	1	11	1	10	1	9	1	9	1	8	1	7	1	6	1
	1クラスあたり人数	28	-	26	-	26	-	26	-	25	-	25	-	23	-	23	-	24	-	24	-	26	-	28	-	32	-
水明小	児童数	352	15	340	15	339	15	325	15	299	15	277	15	261	15	254	15	244	15	234	15	238	15	238	15	229	15
	クラス数	12	3	12	2	12	2	12	2	11	2	11	2	11	2	11	2	10	2	10	2	11	2	11	2	11	2
	1クラスあたり人数	29	-	28	-	28	-	27	-	27	-	25	-	24	-	23	-	24	-	23	-	22	-	22	-	21	-
千曲小	児童数	88	4	87	6	97	6	90	6	87	6	81	6	88	6	86	6	67	6	72	6	70	6	75	6	71	6
	クラス数	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1
	1クラスあたり人数	15	-	15	-	16	-	15	-	15	-	14	-	15	-	14	-	11	-	12	-	12	-	13	-	12	-
児童数合計		771	26	740	28	743	29	696	29	662	29	628	29	600	29	572	29	529	29	525	29	514	29	511	29	493	29
小学校全体クラス数(学級)※		24	4	24	4	24	4	24	4	24	4	18	4	18	4	18	4	18	4	18	4	18	4	18	4	18	4
芦原中	生徒数	384	21	388	19	390	17	410	17	414	17	419	17	408	17	389	17	375	17	335	17	318	17	295	17	308	17
	クラス数	12	3	12	3	12	3	13	3	13	3	13	3	12	3	12	3	12	3	11	3	10	3	9	3	10	3
	1クラスあたり人数	32	-	32	-	33	-	32	-	32	-	32	-	34	-	32	-	31	-	30	-	32	-	33	-	31	-

※早期の対応が求められる

※小学校全体クラス数
普通学級【(学校全体児童数÷6学年)÷1クラス35人×6学年】
特支学級【特支児童数÷8人】

3. 学校別条件シートを活用

- 学校の施設担当者が変わる際の最大の課題は、後任の担当者に施設の情報等が十分に伝達されないこと
- 『学校別条件シート』を活用することで、各学校のハード面の基礎情報（棟別建築年度・延床面積等）・ソフト面の基礎情報（児童生徒数・学級数の将来変化等）を集約し、必要な情報の共有・更新・引継ぎを可能にする

施設別条件シート

学校名	N小学校		地域	鳴尾	延床面積	9,754㎡	児童数 (H29年度)	1,041人	1人あたり	20㎡	※整備優先度は「学校施設整備における優先度の考え方及び優先度の高い学校の選定」による
所在地	敷地面積	設備 (プール)	電気設備	機械設備	児童生徒数・学級数の変化			その他の施設状況			
学文殿町2-2-7 <都市計画状況> 都市計画区域：市街化区域 用途地域：一中 <浸水想定地域> 0.5~1.0m未満 <土砂災害警戒区域>	建物敷地 8,716㎡ 運動場 12,075㎡ その他 借用 合計 20,791㎡	<プール> (屋外) 構造： 長さ：m コース数： 設置年度： 改修履歴： <循環ろ過装置> ろ過方式：	受電容量 KVA （年度） 自家発電 （年度）	受水槽容量 m ³ （年度） 高置水槽 （年度） 浄化槽 （年度） エレベーター （年度）	児童数 S57 1,784人 H29 1,041人 H49 749人 ピークから現在、将来の児童数変化	学級数 S57 41 H29 31 H49 23 クラスクラスクラス	2,000人 1,500人 1,000人 500人 0人	法適合・保有機能等 アスベストの有無 特定天井の有無 消防用水の有無 開放廊下の有無 避難地指定の有無 避難所指定の有無 マンホ-トレの有無 UD化の有無	整備優先度 S20、30年代投舎 教室の不足 運動場の不足 開放廊下 児童1人あたり校地面積 児童数700人以上 (H32)		○

施設概要情報

建物情報一覧表

建物名	001	002	003	004	005	006	007	008	009	010	011	012	013	014	015	016	017	018	019	020	021	022	023	024	025	026	027	028	029	030	031	032	033	034	035	036	037	038	039	040	041	042	043	044	045	046	047	048	049	050	051	052	053	054	055	056	057	058	059	060	061	062	063	064	065	066	067	068	069	070	071	072	073	074	075	076	077	078	079	080
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

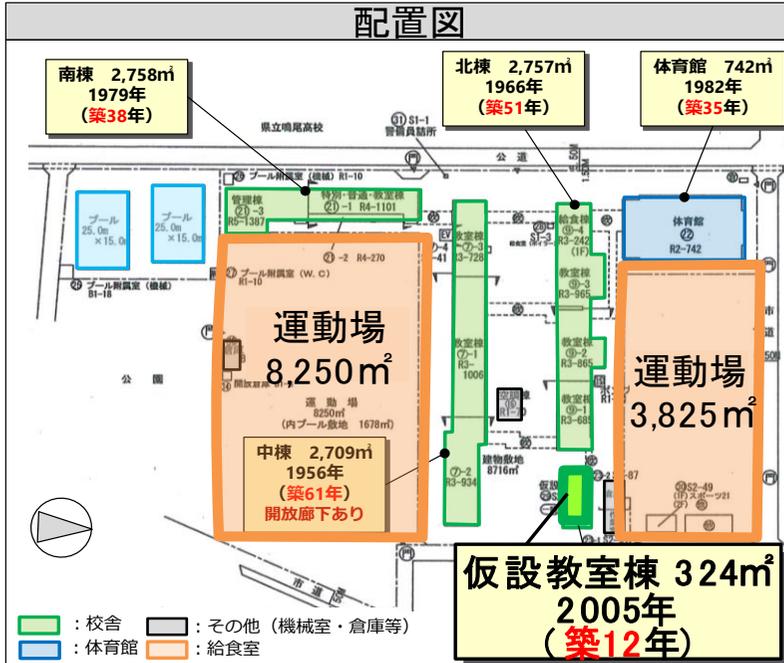
棟別の情報

棟別	001	002	003	004	005	006	007	008	009	010	011	012	013	014	015	016	017	018	019	020	021	022	023	024	025	026	027	028	029	030	031	032	033	034	035	036	037	038	039	040	041	042	043	044	045	046	047	048	049	050	051	052	053	054	055	056	057	058	059	060	061	062	063	064	065	066	067	068	069	070	071	072	073	074	075	076	077	078	079	080
----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

建物基本情報		躯体		劣化状況		仕様・性能		改修履歴 (年度)		修繕・改修履歴		年次計画 (今後のコスト)																																																
学校種別	施設名	名称	建物タイプ	構造	延床面積 (㎡)	西暦	和暦	築年数	躯体劣化	劣化区分	仕様	性能	改修履歴	修繕履歴	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50



- ### 留意点
- 学校南側に学文公民館が立地している。
 - 学校の近隣 (半径500m圏内) には、高校、中学校、幼稚園、保育所のほか、市民集会施設として小松センターが立地している。
 - 学校の半径1000m圏内には、八ツ松市民館がある。
 - 敷地内に、鳴尾北育成センター (学童) が立地している。



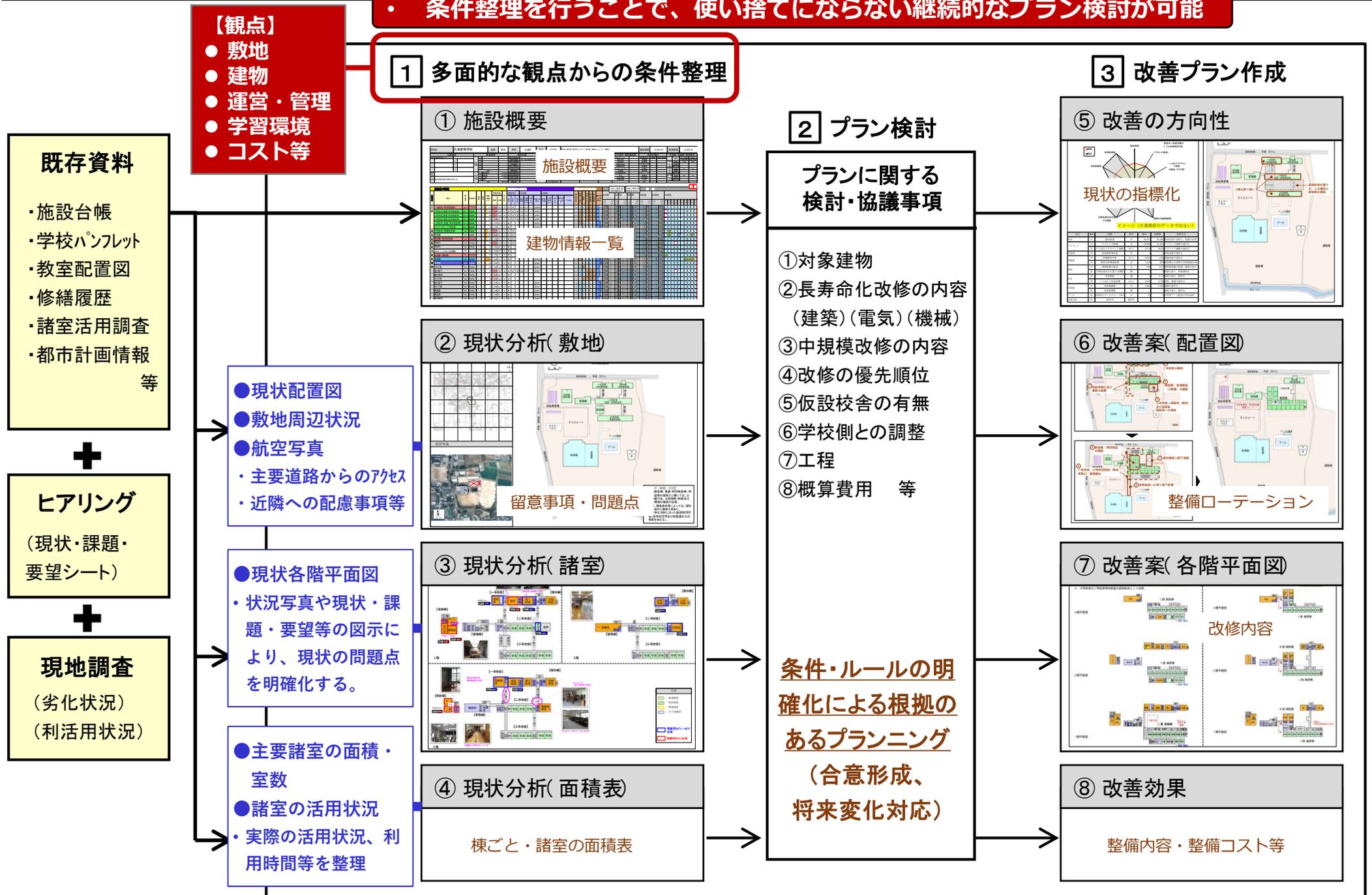
法的条件

用途地域	第一種中高層住居専用地域
防火準防火	—
高度地区	第二種 5m+勾配1.25
高度利用地区	—
日影規制	4時間 2.5時間
道路斜線	1.25
隣地斜線	1.25
隣地斜線	20m

- ### 引継ぎ事項
- 住民説明の結果
 - 留意点等
- の事項をまとめ、必要に応じて更新し、次の担当者へ引き継ぐ

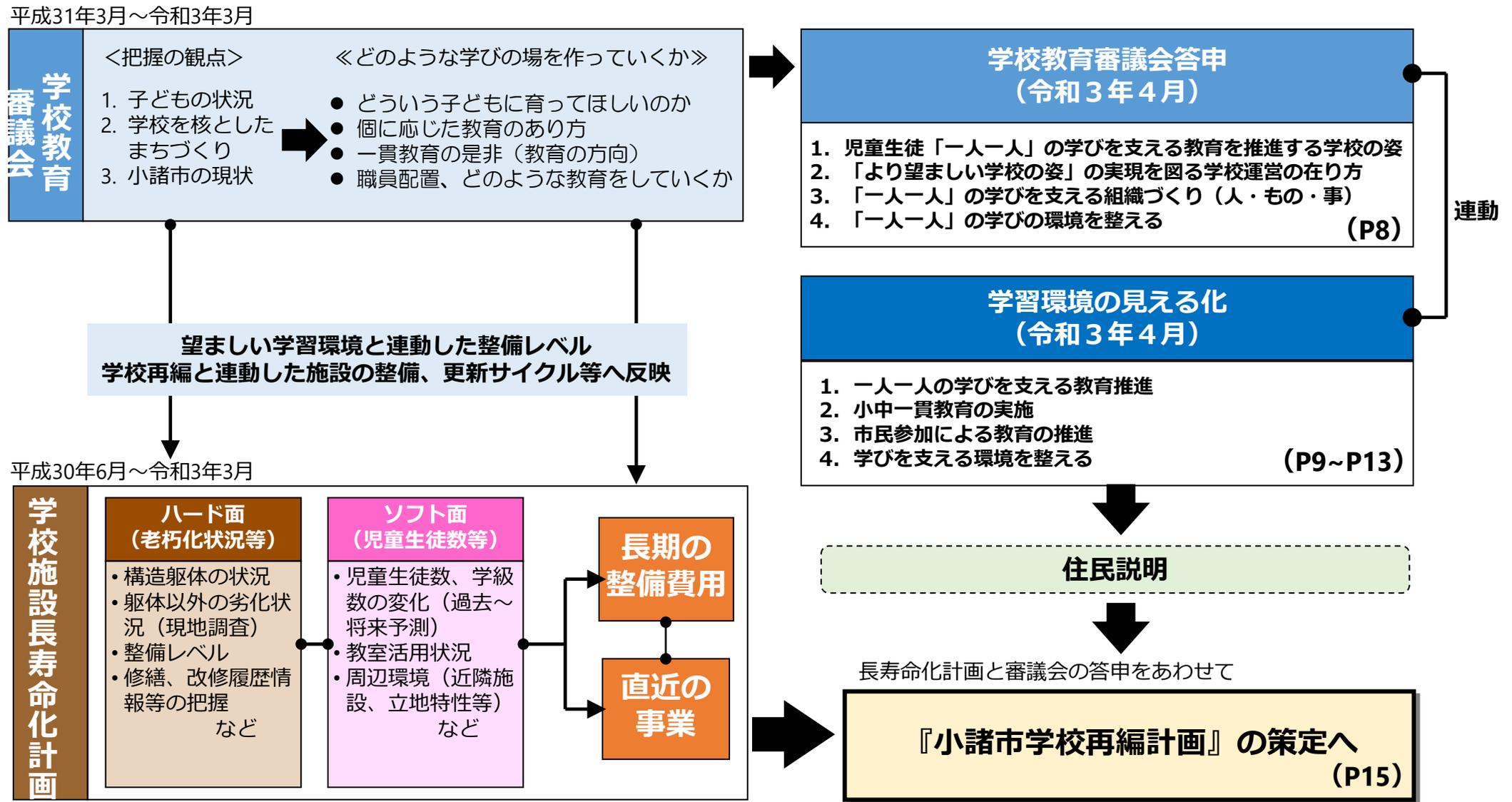
4. 継続性のあるプラン検討 (予算要求資料の作成)

・ 条件整理を行うことで、使い捨てにならない継続的なプラン検討が可能



5. 人口動態を踏まえた学校規模の適正化・適正配置

再編計画検討の進め方（長野県小諸市の例）



5. 人口動態を踏まえた学校規模の適正化・適正配置

小諸市立小中学校の改築・再編について（答申）令和3年4月

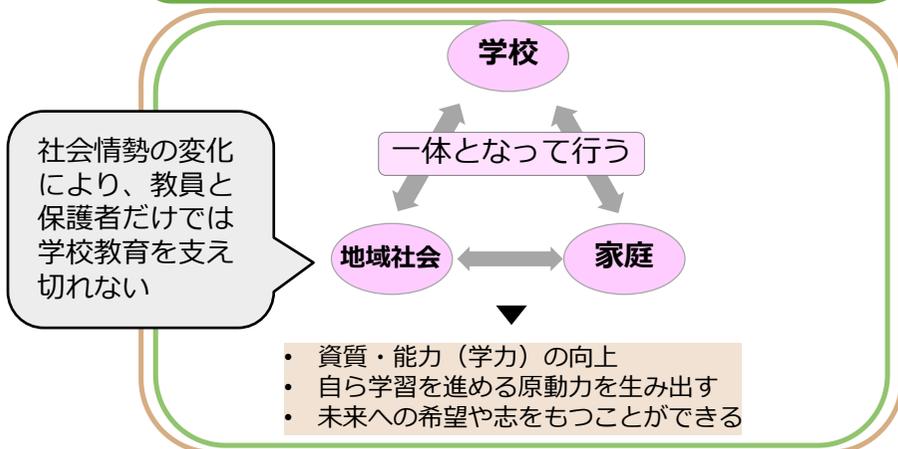
第1章	児童生徒を取り巻く社会と教育の変化
第2章	小諸市の児童生徒の状況と学校教育の取り組み
第3章	これからの時代を生きる児童生徒が育つ「より望ましい学校の姿」
第4章	児童生徒「一人一人」の学びを支える教育を推進する学校の姿とは 1. 非認知能力 2. 言語能力
第5章	「より望ましい学校の姿」の実現を図る学校運営の在り方 1. 小中一貫性ある加付づくり 2. 幼保小、小中、中高の接続 3. 小中をつなぐカリキュラム・マネジメント
第6章	「一人一人」の学びを支える組織づくり（人・もの・事） 1. 学校教職員と行政サービスの集約 2. 市民参加による教育の推進 3. ICT機器の活用
第7章	「一人一人」の学びを支える環境を整える 1. 保護者を支える相談体制、支援体制づくり 2. 「合理的配慮」「ユニバーサルデザイン」に基づく学習と学校の環境整理
第8章	連携・一貫性のある教育の具体的な体制づくり
第9章	小学校の再編、通学区の見直し

「望ましい学習環境」の見える化

求められる学校の実現に向けて

～教育を支える「ひと・もの・こと」の組織化～

1 一人一人の学びを支える教育の推進するために



2 小中一貫教育の実施例

小中教職員の交流

- ・ 加わらマサダメントの推進（教員間の交流の確保）
- ・ 中学校専科教員の授業を小学生が受講

児童生徒の交流

- ・ まず出来るところより行っていく
- ・ 中学校の空き教室に小学生のスペースを確保

児童生徒のつながり

- ・ 学級・学年・学校を越えてつながりをつくる
- ・ 交流スペースで学年を越えて関わりあう

3 市民参加による教育の推進

学校を核としたコミュニティ

- ・ ボランティアによるさまざまなサポート
- ・ 活躍の場づくり交流の場
・ 保護者・子ども・ボランティア

市と民間との連携

- ・ 共有化事例

4 学びを支える環境を整える

- 保護者を支える相談体制、支援体制
- 合理的配慮・ユニバーサルデザインに基づく学習と学校環境整備

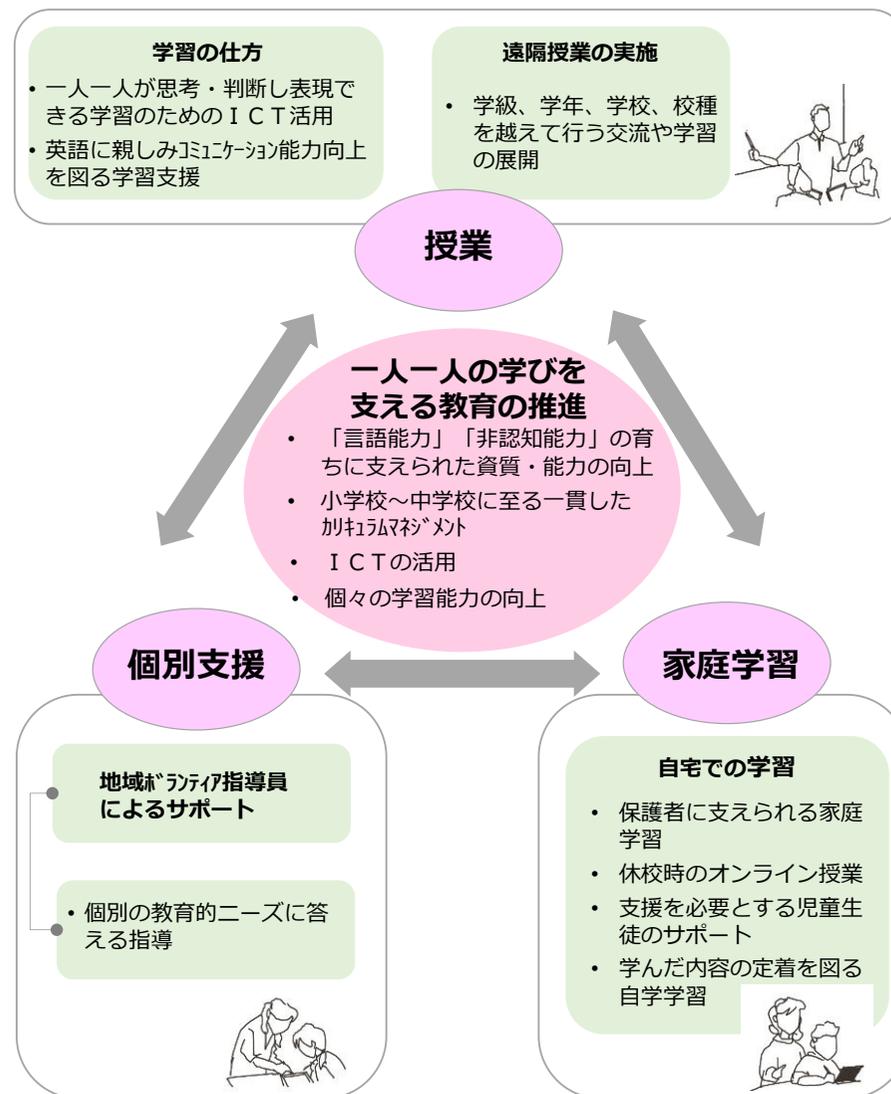
不登校対応

- ・ 小諸市の不登校対応の現状
- ・ 不登校対応の事例

1. 一人一人の学びを支える教育の推進

「授業」「個別支援」「家庭学習」の充実

「言語能力」「非認知能力」の育ちに支えられた資質・能力の向上のため、ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）を取り入れて「授業」と「個別支援」「家庭学習」の3つを充実させる。



「望ましい学習環境」の見える化

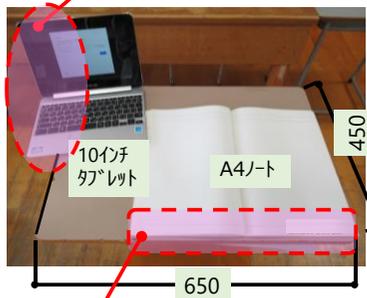
1. 一人一人の学びを支える教育の推進

授業

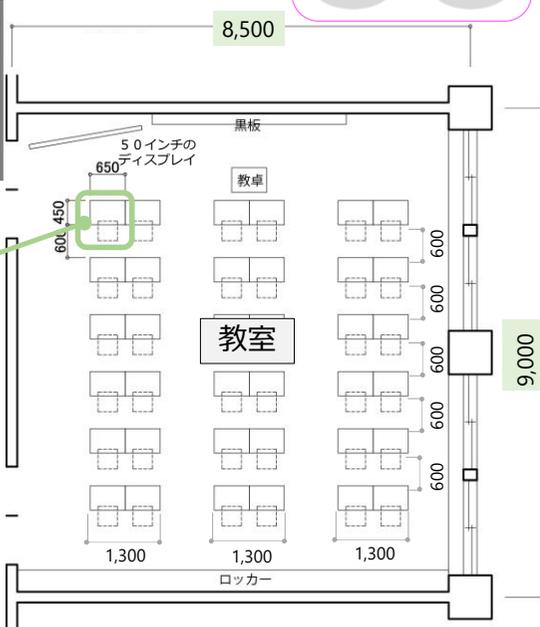
現状の教室と机の大きさ

- 芦原中学校 現状の教室
 - ・ クラスルーム面積 8.5m x 9m : 76.5㎡
 - ・ 1クラス 35人
- 芦原中学校 現状の机
 - 450mm x 650mm

タブレットが机からはみ出る



A4ノートの場合、机ぎりぎりに広がる



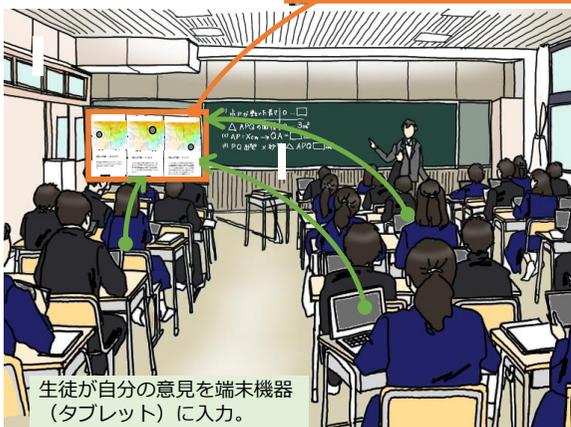
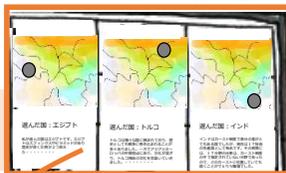
授業

個別支援 ← 家庭学習

(1) ICT活用で、一人一人が思考・判断し表現できる学習

- ・ 用意した画像や動画を端末機器（タブレット）に送り、一人一人の児童生徒が取り組む。
- ・ 生徒の学習状況等をデータ化し、理解度別自動出題等、一人一人に合った学習ができる。
- ・ 教員も児童生徒も「今どこまでできるようになったのか」を把握できる。
- ・ ICTを活用した互いに検討し合う学びは、一人一人の学びを支え、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

生徒一人一人の意見がディスプレイに表示され、一人一人の考えを共有。



1. 一人一人の学びを支える教育の推進

授業

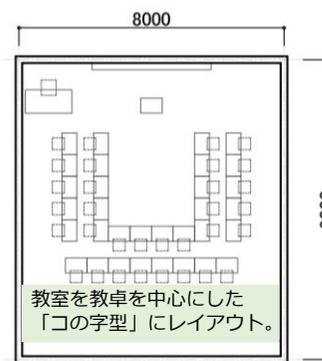
(2) 英語に親しみコミュニケーション能力向上を図る学習

- ・ 小諸市の小学校では、平成27年度より国のモデル事業の一環として「英語教育強化地域拠点事業」に取り組み、**コミュニケーション能力を育成**している。
- ・ 外国語指導助手（ALT）のネイティブな英語を通して、子どもが英語に慣れ親しみ、積極性を育む。「**非認知能力**」の向上にもつながる。

段階的な活用方法

1. 会話重視（コの字型授業）

クラス担任とALTのモデル会話を見たり聞いたりしながら、会話の仕方に慣れ、子ども達みんなが挑戦してみようとする意欲を育む。



ALTとクラス担任による会話表現の授業。

2. アクティビティ重視（グループ学習）

教室に活動スペースを確保し、体を動かして少人数で行う。身体を動かしてゲーム感覚で授業に参加することで、外国語に慣れ親しむ。



ALTとクラス担任がしゃがんで、子どもと目線を合わせた授業。

「望ましい学習環境」の見える化

1. 一人一人の学びを支える教育の推進 **個別支援**

(3) 「個別支援」

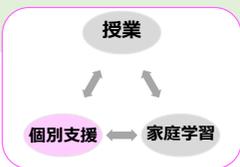
① 地域ボランティア指導員によるサポート

- 地域市民の協力を得て、「信州型コミュニティ・スクール」の取り組みを進め、学習ボランティア等の導入が行われている。
- 放課後に子どもの学びをきめ細かく支えるボランティア指導員によって、資質・能力の向上を図る。
- ボランティアは、子どもの学習サポートの方法等を話し合い、子どもに寄り添いながら活動を行う。



② 個別の教育的ニーズに答える指導

- 指導教員、指導員に相談したり、友人と一緒に学習を進めることも可能となる。



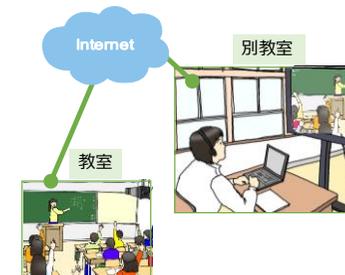
1. 一人一人の学びを支える教育の推進 **特別支援教育**

(4) 特別支援教育の充実

- 配慮や支援を必要とする児童生徒が特別支援学級だけでなく、通常学級にも在籍している。どの児童生徒も共に学び育つ仲間であることを踏まえ、個別の教育的ニーズに的確に応える指導を提供することが求められてきている。
- ことば、学習障がいのための通級指導教室を拠点小学校（坂の上、美南カ丘）に計2学級設置している。
- 小諸市特別支援教育コーディネーター連絡会では、幼保・小、小・中の情報交換を行っている。
- オンライン上で小学校間のデータ及びツールの活用・情報交換を行うことで、一人一人に合った支援の質の向上につながる。
- オンラインで小学校と中学校とも連携がしやすくなり、連続的な支援ができる。

① 安心して学ぶ

- 通常学級で教師と指導員がチームをつくり、一人一人の学びを支える。
- ユニバーサルデザインを大切にした教室環境。



② 地域の人と関わりながら学ぶ

- 地域の方々の協力を得て、豊かな学びをする。



③ 一人一人のペースで学ぶ

- 音声再生や読みやすい大きさに拡大、漢字にルビを表示等、一人一人が学びやすい学習方法で学べる。



多様な学び方

「望ましい学習環境」の見える化

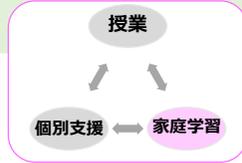
1. 一人一人の学びを支える教育の推進

家庭学習

(5) 学習を進める原動力を生み出す「家庭学習」

① 保護者に支えられる家庭学習

- 保護者に見守られ支えられる家庭学習は、児童生徒にとって**学習への意欲向上**となる。
- 親子が対話する貴重な機会となり、学校での様子や**心の状態への気づき**も期待でき、児童生徒にとって心の成長につながる。



② オンライン授業の実施

- 休校時は、学校との双方向**オンライン授業**を実施することで、家庭で学びを継続できる。



③ 放課後児童クラブ等を活用した学習サポート

- 児童の中には、自宅で十分な学習スペースを確保できない場合もあるため、放課後児童クラブや他の公共施設等を活用して自習スペースを確保する。
- 家庭での学習環境が十分でない児童生徒が、児童館、公民館、図書館等でボランティア等の支援を受けて学ぶ。



④ 学んだ内容の定着を図る自学自習

- 家庭に端末機器（タブレット）を持ち帰り、自宅で自学自習へつなげるため、つまづきを克服しながら学んだ内容の定着を図ることができる。
- 教員が、端末機器（タブレット）内に管理された学習履歴を確認し、子どもの学習状況を把握できる。



1. 一人一人の学びを支える教育の推進

授業

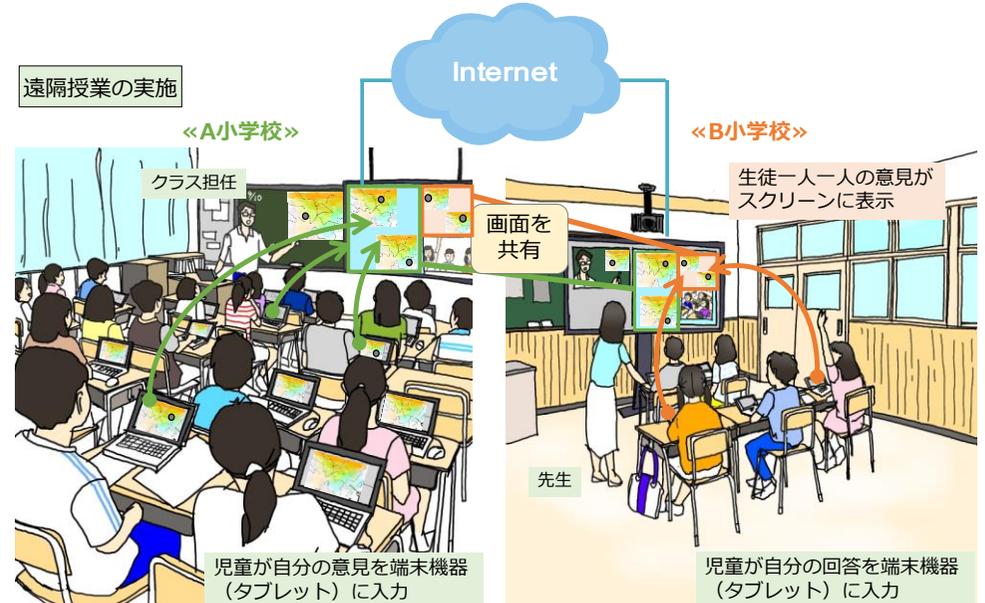
(6) 遠隔授業の実施

- 離れた2つの学校の同じ学年の児童生徒が、互いの取り組みの情報交換をしたり意見交換をしたりしながら学習を進めることが可能となる。（例：「社会」農業学習で高原野菜や果樹栽培の情報を交換）
- 補助員を設け、児童たちの学習のサポートを実施する。
- 教員は、ICT機器で一人一人の意見を同時に確認し、授業への個人の理解度を把握できる。



離れた2つの学校で同時双方向コミュニケーションを取りながら学習を進める

遠隔授業の実施



児童35人+教員がICT機器を活用して場所の離れた学校と遠隔でつながる。

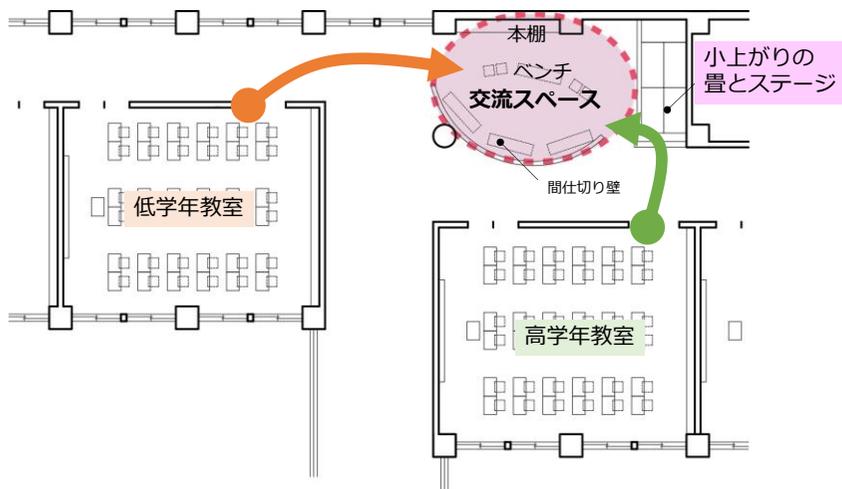
児童に対して、ICT機器の操作や学習等をサポートする補助員が付き、授業を進める。

2. 小中一貫教育の実施（例）

（1）児童生徒のつながり

① 学級・学年・学校を越えたつながりをつくる

- ・ 小学校から中学校へ進学した際の「学びのギャップ」や「学校生活のギャップ」の解消のため「学年を越えたつながり」の場を設ける。
- ・ 小学校の高学年ゾーンと低学年ゾーンの間、ベンチ等家具を配した交流スペースを設ける。
- ・ 交流スペースでは、休み時間を利用して高学年と低学年がさまざまな交流活動を行う。
- ・ 交流を通して高学年の自覚が深まり、活動の成功体験が児童の成長につながる。



② 交流スペースで学年を超えて関わりあう

- ・ 低学年が楽しめる絵本を探し、仲間と相談して活動に取り組む。
- ・ 学年を越えての関わり活動が、高学年の子どもに自信、意欲、協調する力、粘り強さ等「非認知能力」の向上や心の成長につながる。
- ・ オンラインの小中学校の交流スペースとしても活用できる。



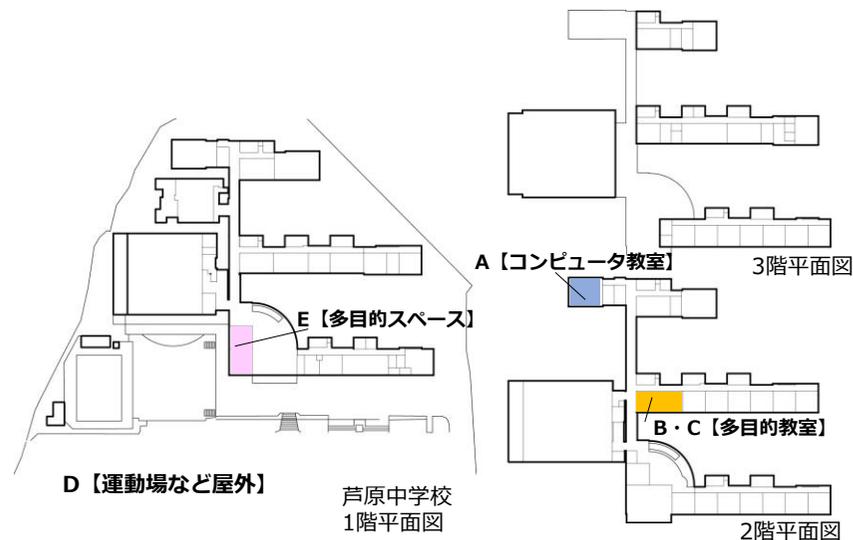
- ・ 交流スペースで高学年の子どもが低学年の子どもに読み聞かせを行う。

2. 小中一貫教育の実施（例）

できるところから実施する

（2）スペースの活用

① 芦原中学校で活用できそうな既存スペース



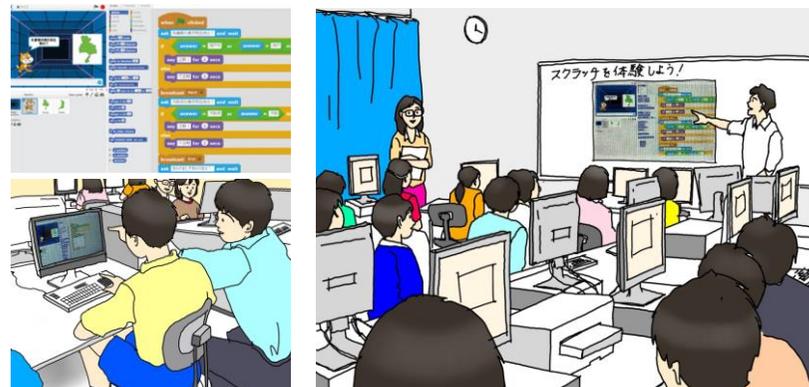
既存の教室を活かして、コンピュータ教室や多目的スペース等を小学生の居場所として確保していく。

② 中学校校舎一部を活用した活動例

小学校と中学校のつながりを充実させるため、小中連携活動を実施する。

A 中学校での1日体験授業【コンピュータ教室】

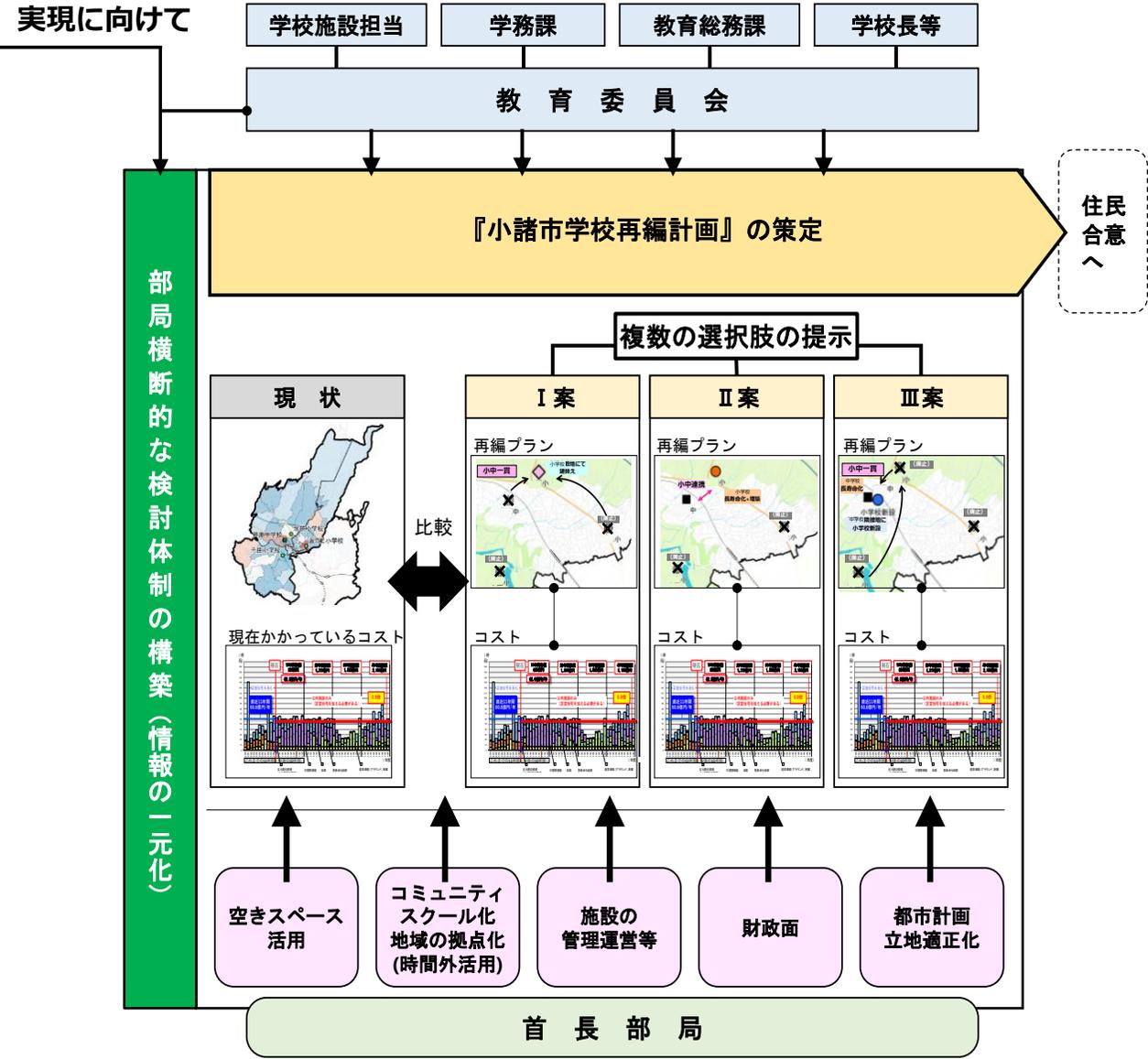
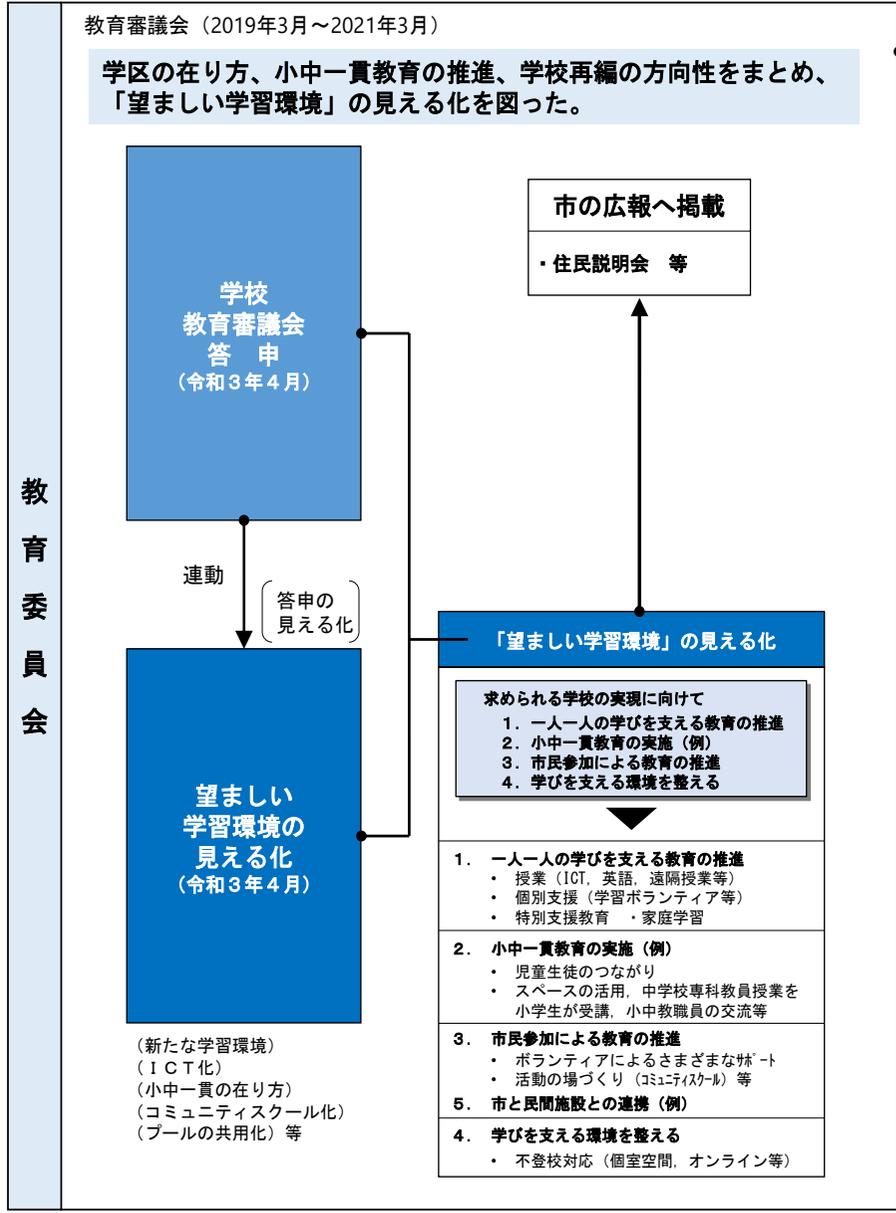
- ・ 中学校の教員が、特別教室を利用して、パソコンや英語、技術家庭といった中学校ならではの授業を小学生に行う。



6. 部局横断的な検討体制

・ 部局横断的な検討体制を構築し、幅広い検討を行う

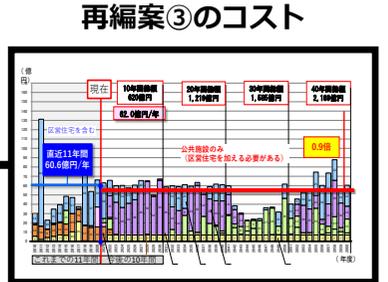
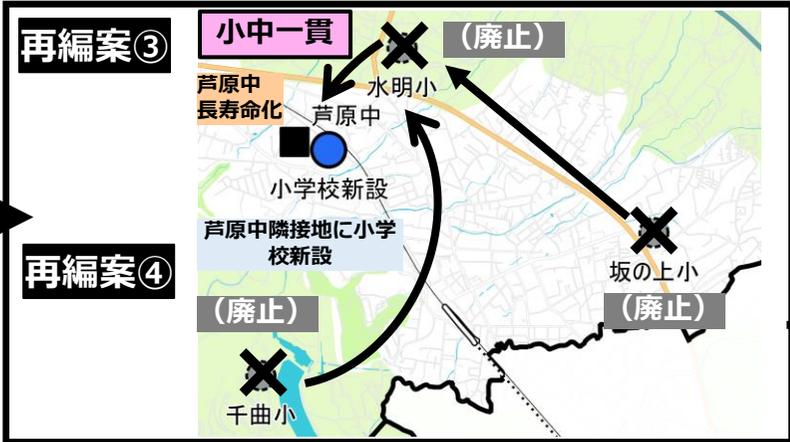
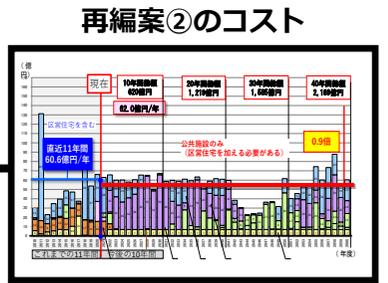
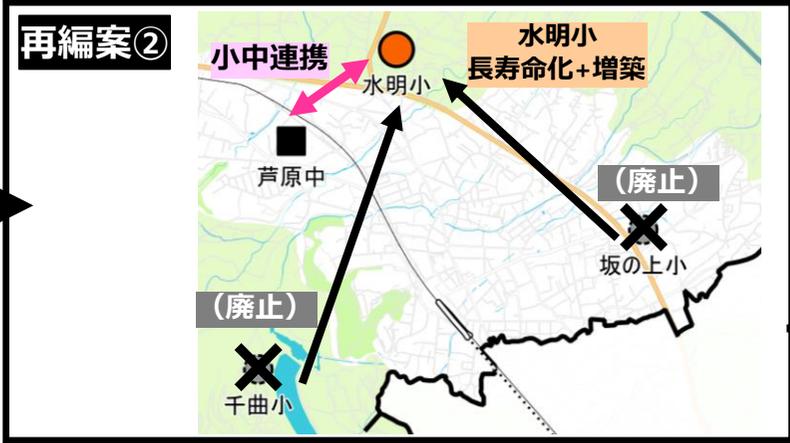
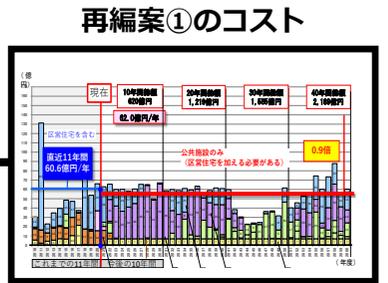
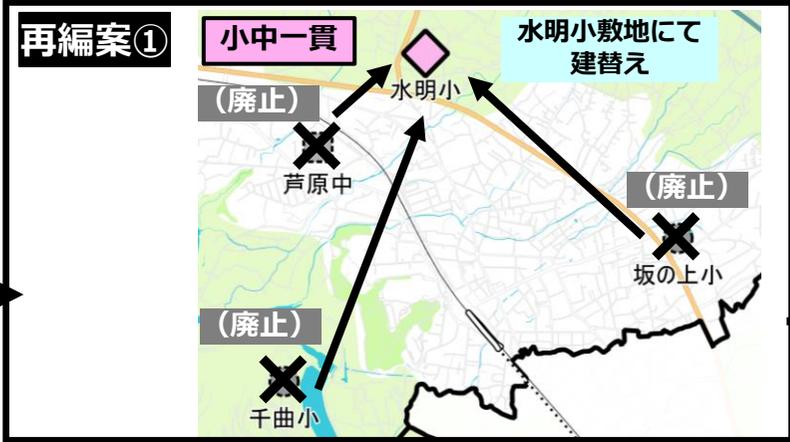
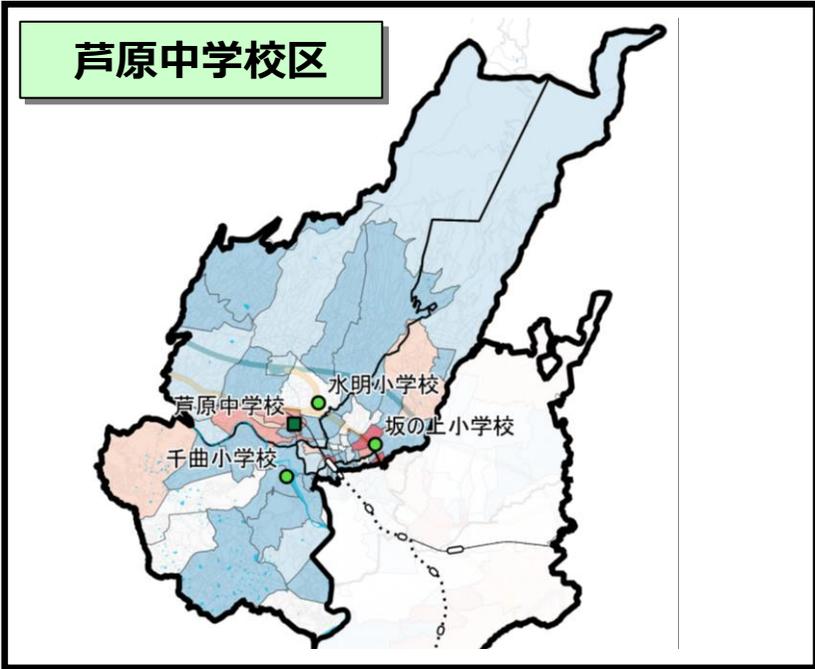
教育委員会・教育審議会での議論のまとめ



7. 小中学校の再編計画

複数の選択枝とコストを算出し、比較検討できるようにする

長野県小諸市 芦原中学校区再編検討例



施設一覧

	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	建築年度	児童生徒数 (2020年現在)		学級数 (学級)	
				通常学級 在籍者数	特別支援	通常学級	特別支援
坂の上小学校	9,357	6,387	昭和45	307	8	12	1
水明小学校	13,980	5,762	昭和49	339	15	12	2
千曲小学校	8,624	4,966	昭和56	97	6	6	1
小学校合計	31,961	17,115		743	29	30	4
芦原中学校	17,515	12,249	平成3	390	17	12	3
合計	49,476	29,364		1,133	46	42	7

8. 管理運営・施設の維持管理の見直し、他の公共施設との複合化・共用化

《管理運営・施設の維持管理の見直し例》

項目		期待される効果等	
1	プールの共用化等	① 市民プール等を活用	・更新費用縮減 ・施設管理負担の軽減
		② 民間スイミング・スクールに水泳授業を委託	・更新費用縮減 ・施設管理負担の軽減 ・水泳指導負担 ・安全管理負担の軽減
		③ 市有地に民間事業者が整備したプールで水泳授業を委託	・更新費用縮減 ・施設管理負担の軽減 ・水泳指導負担 ・安全管理負担の軽減 ・施設整備・保有負担の削減 ・財政収入の向上
		④ 学校とスポーツ施設（体育館・グラウンド）の共用化	・更新費用縮減 ・施設管理負担の軽減 ・安全管理負担の軽減 ・施設整備・保有負担の削減
2	学校施設の維持・管理の見直し（教員から施設の維持管理を切り離す）	① 小学校と出張所・地区プールを複合化し、施設の維持管理を一体的に民間に委託	・複合化に伴い施設維持管理の外部委託 ・施設管理負担の軽減
		② 学校を含む公共施設の維持管理を包括的に民間に委託（学校と他の公共施設の包括管理委託）	・複数施設を包括的に施設維持管理を外部委託 ・施設管理負担・運営（学校開放調整）の軽減
		③ 学校開放の管理運営と校務員業務を一体的にNPO法人に委託（総合型地域スポーツクラブとの連携）	・管理・運営の一部を一体的に外部委託（学校開放業務・校務員業務） ・施設管理負担・契約事務負担の軽減
		④ 学校と市民開放施設等をPFI事業により一体的に整備・維持管理	・複合化・PFI事業に伴う施設維持管理の実施 ・放課後地域開放を外部委託 ・施設管理負担・運営（学校開放）負担の軽減
3	クラブ活動の外部委託（小・中学校）（高校）	① クラブ活動の外部委託（部活動指導員の配置）	・勤務時間、専門指導負担の軽減
		② 学校と併設した社会体育施設を管理運営する総合型地域スポーツクラブが部活動を指導	・クラブ活動指導支援の外部委託
		③ 拠点校方式	・クラブ活動指導の共同化 ・勤務時間、専門指導負担の軽減
		④ 運営主体の地域への移行（休日の部活動）	・クラブ活動指導主体の移行 ・勤務時間、専門指導負担の軽減
4	学校施設の時間外活用（地域の拠点化）	① アフタースクール、日曜日レッスン等（私立学校）	・児童・保護者のニーズの多様化への対応（放課後の居場所・専門指導） ・放課後活動の充実
		② 小学校の施設全体を活用した放課後児童クラブ、月謝制の継続的なプログラムを実施（公立学校）	・児童・保護者のニーズの多様化への対応（放課後の居場所・専門指導） ・放課後活動の充実
		③ 学校開放プールの管理・運営に指定管理者制度を導入	・時間外の学校施設の管理・運営を教員から、切り離し ・時間外の管理運営負担・責任の削減

《他の公共施設との複合化・共用化例》

	概要
① 学校・町立図書館・町民体育館の複合化【香川県まんのう町】	・ 中学校の建替えにあわせて町立図書館と町民体育館を新たに複合的に整備、維持管理・運営する事業をPFI事業で実施。 ・ 町民体育館は中学校の授業等でも使用。町立図書館の運営事業者が中学校の図書館運営業務も受託、町内の子どもたちの読書環境が充実。
② 中学校と保育所、高齢者福祉施設、商業施設の複合化【京都市】	・ 中学校の統合・建替えにあわせて、市中心部の希少な土地の有効活用、市の厳しい財政状況、地域ニーズへの対応を図るため、地域ニーズの高い施設（高齢者福祉・子育て）、地域の賑わいを創出する施設（商業施設）との複合化施設を整備。PFI事業により実施。
③ 学校施設と他の機能との複合化<新築型>【埼玉県吉川市立美南小学校】	・ 新興住宅地での公共施設整備にあたって、学校と地域ニーズに対応した複数の公共施設を一体的に整備。地域コミュニティの拠点が形成。 ・ 施設の維持管理、補修修繕については、各施設の管理者が実施しており、不具合の生じた箇所の所管が不明な場合は、担当者間で協議の上、対応している。施設整備・光熱水費の支払いについては、教育委員会で一括して支払っている。
④ 区分所有による学校施設の高機能化【東京都品川区立第一日野小学校】	・ 小学校の改築とともに、隣接の教育総合会館を改修・増築し、所有部局が異なる施設間の連携・共有化を図った。 ・ 施設全体の維持管理業務は民間の管理業者に委託。 ・ 小学校、幼保一体施設、図書館、文化センター、教育センターといった教育・文化施設を改築・改修・増築等により一体的に整備することにより、教育環境の充実、地域の教育・文化活動の拠点形成等につながっている。
⑤ 隣接する社会体育施設を利用【秋田県東成瀬村】	・ 小学校の老朽化した屋内運動場および廃校になった高校の屋内運動場を解体し、同敷地に村民体育館を建設し、小学校とは渡り廊下でつなぐことで、児童が敷地外に出ることなく使用できるようにした。
⑥ 1地区ごとに小学校・中学校・公民館が1つずつある特色を生かして「地域とともにある学校」の実現【埼玉県日高市】	・ 令和2年4月から、市内全ての小・中学校で、コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育を開始。各小・中学校区で1つ（合計6つ）の学校運営協議会を設置する。 ・ 1地区ごとに小学校・中学校・公民館が1つずつあることや地域の協力が強いという日高市の特色を生かし、義務教育9年間を見通した学校教育を実現する。

・ 管理運営・施設の維持管理の見直し例は、部分的な取組が始まったところで、今後さらなる展開が必要

・ 他の公共施設との複合化・共用化例は、多く出てきており、その効果や課題等を整理する必要がある

複合化効果の検証

単純に施設をあわせただけでは効果は少なく、委託費や運営面など部局横断的な見直しを行うことで複合化の効果が期待できる

